

私立！虹第六高校！！！

musashisan

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ここはあるところの私立学校。ここでは優等生があつまり、どこか聞き覚えのある有名人ばかりの進学校。そこで起きる様々な物語。新たな学園ストーリーが始まるのであった。

第1話 転校生現る

目

次

第1話 転校生現る

「はい。じゃあ今日は皆も知つている通り、転校生を紹介するぞ」

そういうのはこのクラスの担任でも
カ一先生。 56と結構年は、いつている。

そういう、教室のドアが開く。わざわざドアを閉めたことは片隅においておいて新たな生徒が入る。

「今回新しく入ったミサミュエル・ノイ

な

「それからよろしく」

そう簡潔にいい、席の真ん中へと座る。

因みにこのクラスは1ーA隣のクラスは1ーBだ一クラスしかないのはここはエリート高校だからだ。

そんな中で転校生が来るのはおかしい？

実はこの高校ある能力があればその検査だけで転校できてしまふ

۱۷

「好きな食べ物はなご?」

「得意なことは?」

—皆そんなに急かさないのこの人困つてゐるでしょ？で？私が簡潔に言
うからそれを答えて 何処から来て、得意分野と生年月日 好きな食
べ物 好きなテレビ 休みの日は何をしていて、何処かへ出掛ける？
アウトドア？ インドア？ パン派？ お米派？ 家は何処？ なん
でここに来たの？ あの先生のこと、どうおもう？ 呼ばれたい名前

とその会話で鐘がなつた。

皆「、、、」

彼女の会話力はすごいがなかなかなるため中々話す人がいない。

一時間目は国語だ。

「はいそれじゃあ転校生が来たのもあって簡潔な自己紹介をみんなでやりましょ」

といい自己紹介が何故か開始された。

尚これは自己紹介編へと続く。、

自己紹介で授業が終わり、その後も問答が続いた。
だが彼はあまり自分のことを語らなかつた。

その後は皆はいつもの状態に戻り、一人の人はひとりで、集団のグループは集まり、何故か心がいたくなるけど続ける。

昼はもちろん一人だつた。

体育もグループを作れと言われても一人で2役をしていた。流石に他の一人のどこに入つたけど、

そして放課後なんと隣のクラスからゾロゾロと人が來た。
どうやら今皆転校生についてしつたようだつた。

そしてまた問答の熱は来てさつきまで知らんぶりだつた人も來た。
その後次第に皆とわだかまりあい、打ち解けていった。

???「あれ、おれ一人、、、、、」

と隣のクラスのアイドルを見捨てていつたことを皆は後から知る
のであつた。